
「Daiichi Life グループ サステナビリティレポート 2026」の発行について

株式会社第一ライフグループ（代表取締役社長 グループ CEO：菊田 徹也、以下「当社」）は、「Daiichi Life グループ サステナビリティレポート 2026」を発行しましたのでお知らせします。

当社グループは、社会における存在意義を表すグループパーパスとして「共に歩み、未来をひらく 多様な幸せと希望に満ちた世界へ」を掲げています。このパーパスの実現の根幹には持続可能な社会の実現があると考え、事業を通じた社会課題の解決とサステナブルな社会の実現に向けて、優先的に取り組むべき重要課題を4つの「コア・マテリアリティ※」として定義し、これらに基づいた事業活動を推進しています。

※当社グループでは、以下の4つを優先的に取り組むべき重要課題（コア・マテリアリティ）として定義しています。
「Financial Well-being for All（すべての世代を支える金融サービスの提供）」、「Healthy People and Society（一人ひとりの well-being と健全な社会への貢献）」、「Green Leadership（環境課題への戦略的対応）」、「Proactive Governance and Engagement（経営基盤の強化と社員・多様なステークホルダーとの積極的な向き合い）」

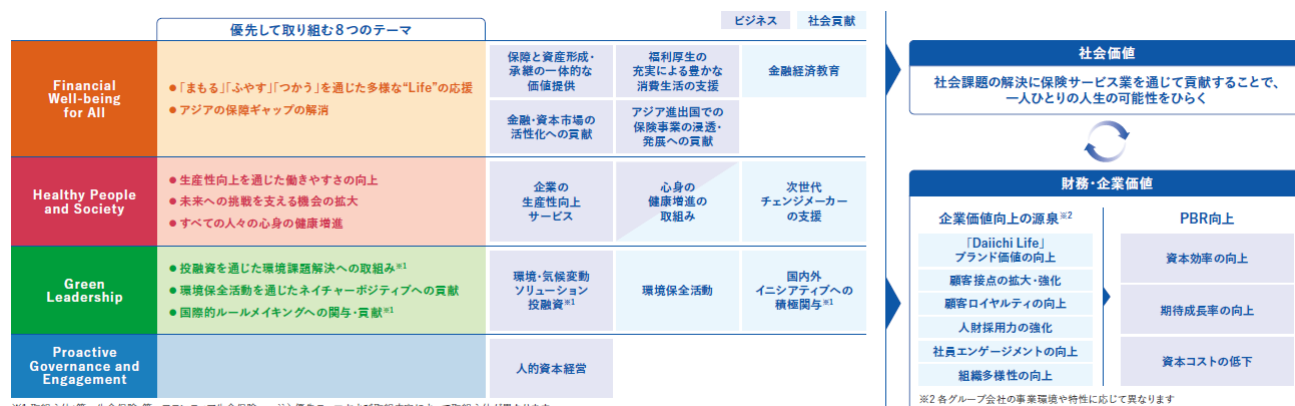
本レポートは、当社グループのサステナビリティに関する考え方や活動をより分かりやすくお伝えするための包括的な報告書であり、同日発行の「第一ライフグループ 統合報告書 2026」を補完する位置付けです。

2026 年度のサステナビリティレポートでは、当社グループが向き合う社会課題とその解決に活かす強み、取り組みを通じて創出する社会インパクト、ならびに中長期的な企業価値向上とのつながりを、できる限り具体的に示すことを重視しています。また、これまで整理してきた気候変動・自然への対応、責任投資、人権などの取り組みについても、コア・マテリアリティとのつながりの中で捉え直し、優先して取り組むテーマや、その背景・目指す姿がより明確に伝わる構成としています。

「Daichi Life グループ サステナビリティレポート 2026」のポイント

- 4つのコア・マテリアリティをより具体化し、当社グループとして優先して取り組む8つのテーマを明確にしました。その起点となる社会課題や当社グループが取り組む理由なども提示することで、各優先テーマへの取組みが社会価値と財務・企業価値にどのようにつながるかを、より分かりやすく説明しています。
- サステナビリティは一部の専門部署だけの活動ではなく、さまざまな部署の社員が当事者意識を持って推進しているものであることから、取組みに携わる社員の顔が見えるメッセージを掲載しています。
- 写真・イラストの効果的な配置に加え、インデックスやページ間リンクの追加などを通じて、レポート全体の読みやすさを高める工夫をしています。

<コア・マテリアリティの解決に向けた取組みと社会価値、財務・企業価値へのつながり>



なお、本レポートの「コア・マテリアリティの解決に向けた取組み Green Leadership」パートは、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）および自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）の提言に基づき作成しています。

当社グループは、これからもコア・マテリアリティの解決に向けて、実効性のある取組みを進化させるとともに、適切な情報開示を推進していきます。

■「Daichi Life グループ サステナビリティレポート 2026」は以下の URL からご覧いただけます。

https://www.daiichilife-group.com/sustainability/report/sustainability-report/pdf/2026_index_001.pdf

■「第一ライフグループ 統合報告書 2026」は以下の URL からご覧いただけます。

https://www.daiichilife-group.com/investor/library/annual_report/pdf/2026_index_001.pdf